

(様式 13)

氏名(本籍) 長谷川 陽子 (埼玉県)
学位の種類 博士(歯学)
学位記番号 甲 第423号
学位授与日 2024年3月14日
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第1項該当者)
学位論文題目 GOHAI を用いた口腔関連 QOL の評価と歯周炎重症度との関連性に関する研究

論文審査委員 (主査) 教授 藤澤 政紀
(副査) 教授 申 基喆
(副査) 教授 横瀬 敏志
(副査) 教授 村本 和世

論文内容の要旨

歯周炎は、歯周組織に生じる炎症性破壊性疾患であり、歯周組織破壊は正常な咬合機能を阻害し、口腔機能が低下することで、全身の健康にも悪影響を及ぼすことが一般的に知られている。これらの健康問題は、患者の口腔関連 QOL に負の影響を与えることが推察されるが、歯周炎患者における口腔関連 QOL を評価した研究報告は極めて少なく、口腔関連 QOL を低下させる歯周病学的要因との関連性はいまだ明らかとなっていない。そこで本研究の目的は、歯周炎患者の口腔関連 QOL および歯周病学的パラメータを評価し、歯周炎の進行が口腔関連 QOL に及ぼす影響を明らかにすることである。被験者は95人で、慢性歯周炎患者群68人と、歯周組織が健全な者27人を対照群とした。さらに、患者群を歯周炎重症度別にステージ I 群は17人、ステージ II 群は23人、ステージ III 群は14人、ステージ IV 群は14人と分類した。口腔関連 QOL の評価は GOHAI (General Oral Health Assessment Index) を用いて実施した。その結果、歯周炎が重度であるほど口腔関連 QOL は低下する傾向が示された。さらに、性別、歯槽骨吸収率および歯の動揺が口腔関連 QOL と強く関連することが示唆された。

論文審査および試験結果の要旨

本論文は、GOHAI を用いた口腔関連 QOL の評価と歯周炎重症度との関連性を明らかにしたものである。本論文における統計学的検討の結果、歯周炎が重症化し、歯周組織破壊が進行すると患者の口腔関連 QOL は低下し、性別、歯槽骨吸収率および歯の動揺が口腔関連 QOL と強く関連することが示唆された。これは臨床研究において、患者の歯周炎に対する QOL を数値化し、QOL に与える影響を客観的にとらえることの重要性に繋がる、新たな知見を提供しているものと判断できた。

明海大学大学院歯学研究科歯学専攻 長谷川 陽子に対する最終試験は、2023年12月27日、主査 藤澤 政紀教授、副査 申 基喆教授、横瀬 敏志教授、村本 和世教授の4名により行われた。論文審査ならびに専攻学術に関し、口頭試問をもって実施し、合格と認めた。また、長谷川 陽子の語学試験は、大学院入学試験の外国語試験の結果をもって合格とした。よって申請者 長谷川 陽子の本論文は、博士(歯学)の学位論文に値するものであると判断した。

よって、申請者：長谷川 陽子は、博士(歯学)の学位を授与されるに値するものと判断した。